

### ①筑波・鶏足山塊ゾーン

八郷地区がこのゾーンに入ります。ここでは、筑波山地域の山々をつくる岩石から約3億～1億5千万年前の海洋プレートの大移動と大陸プレートの沈み込みや、それに伴う地下深部での大量のマグマの形成まで、数億年前以降のダイナミックな大地の変動の歴史を学ぶことができます。

### ②霞ヶ浦ゾーン

石岡地区がこのゾーンに入ります。ここでは、数十万年前以降の気候変化や海面変化、地殻変動が作り出した地形・地質の成り立ちが分かります。霞ヶ浦周辺の地形や地質には、約13万～12万年前の「古東京湾」という広大な内海や、約8万年前の「古鬼怒川」という大きな河川の痕跡が残されています。

### ③山と湖をつなぐ平野ゾーン

関東平野の原型は、古東京湾の海底でできました。約10万年前以降、寒冷化で海面が低下すると、海底でできた広大な平坦面が地上に現れました。その後、関東近辺の火山活動により、火山灰が地上に厚く積もり、関東ローム層と呼ばれる地層ができました。この地層が、降水や川の流れなどで削られ、現在の関東平野になりました。

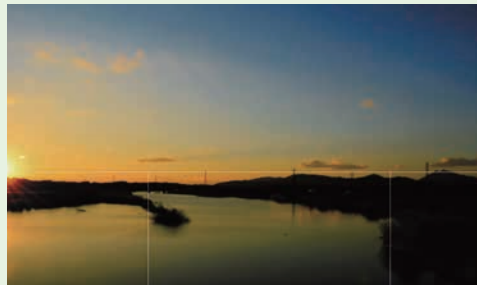
## ●高浜入り

約2万年前の水河期に、恋瀬川の活発な削り込みによってできた深い谷が、大量の土砂で埋められてできた入り江です。その後も河川が運び込む堆積物が、高浜入りの遠浅な水辺環境を作り上げたことで、港となりました。

奈良時代～平安時代は常陸国府の外港として、江戸時代以降は多くの物資が集まる霞ヶ浦水運の河岸として栄え、豊富な水と肥沃な土壌が育む穀物は、この地域に醸造業を発展させました。

県道沿いの低地には高浜神社があります。国府が石岡市に置かれた時代、国司が都から着任すると国内の大社に

報告のための参拝や、毎年、奉幣、祈願に参向する習わしがありました。常陸国では、国府の外港である高浜から船で鹿島神宮まで行くことになっていましたが、荒天により出航できないときは、高浜神社から拜んだとされています。



▲霞ヶ浦

近くには東日本第2位の規模を誇る舟塚山古墳があるよ！



▲舟塚山古墳

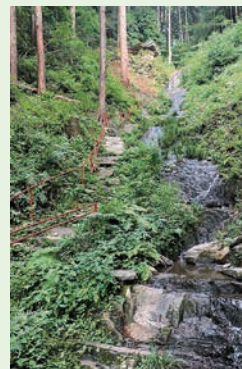
## ●瓦塚窯跡～鳴滝

石岡市部原の瓦会街道から入ったところに飛鳥時代～平安時代の窯跡である「瓦塚窯跡」があります。常陸国府・常陸国分寺・常陸国分尼寺に用いられた瓦などが生産された場所です。昭和12年に「瓦塚」として茨城県指定史跡に指定され、平成29年に「瓦塚窯跡」として国の史跡に指定されました。

瓦会地区の山中にある鳴滝は落差約20mの見事な滝です。黒っぽい変成岩の層が急角度で立っており、層が細かく段を作りその上を軽やかに沢水が流れ落ちていきます。水量はそれほど

多くはありませんが、楚々とした流れと空気感に包まれています。大雨の後などに雷が轟くような水音が聞こえたため「鳴滝」と呼ばれるようになりました。

滝のすぐ近くに駐車場があり、気軽にマイナスイオンに触れてリフレッシュできる場所です。



▲鳴滝



鳴滝の様子は石岡市 YouTube 公式チャンネルの動画でも見られるよ！





# みんなでジオを感じよう



筑波山地域ジオパークは、国内で41番目の「日本ジオパーク」として2016年9月に認定されました。

石岡市・笠間市・つくば市・桜川市・土浦市・かすみがうら市の6市からなるこの地域は、茨城県の約20%の面積に相当し、日本百名山の一つである筑波山、国内第2位の湖面積を誇る霞ヶ浦や日本最大の平野である関東平野など、日本を代表する大地の遺産を有しています。

ジオパークでは、貴重な地形・地質とそれらが作り出す美しい自然景観が見られます。さらにそこで育まれる生物や生態系、歴史や文化、産業といった人々の営みを知ることができます。 閩文化振興課 Tel 43-1111

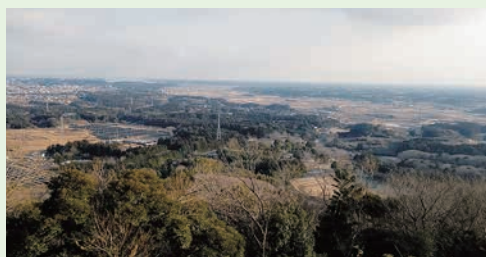


## ☆市内でジオを感じよう☆

### ●龍神山

常陸風土記の丘近く、ふるさと農道から龍神山ハイキングコースに向かう途中でジュラ紀の地層を観察できます。この場所の岩石は、粒の大きい砂と粒の小さい泥が交互に重なって層になっています。砂が多い層は厚くて白っぽく、泥が多い層は薄くて黒っぽくなっています。

これらは、約1億5千万年前（中生



▲龍神山山頂からの景色

代の後期ジュラ紀)に海底に積もった砂や泥が固まってできた岩石です。海底にたまった地層は、長い年月をかけて海洋プレートの運動によって運ばれ大陸にくっつき、さらにマグマの熱を受けて現在の姿になりました。地層が傾いているのは、この期間に生じた岩石の変形が原因です。



▲ジュラ紀の地層

ジュラ紀は恐竜がいたころだよ！



見晴らしが良く、登りやすいので初日の出を見るのもイイネヨ

### ●常陸風土記の丘

この付近には、縄文時代から古墳時代にかけ人々が生活していたと考えられる宮平遺跡が広がっており、集落跡と鉄を造っていた製鉄炉などが見つかりました。東日本ではまれな巴型銅器と呼ばれる飾り金具が見つかり注目されました。

約13万年前～12万年前の時代には「古東京湾」と呼ばれる海が龍神山の麓付近まで広がっていました。この海により運ばれた地層には砂鉄が含まれており、この砂鉄を利用した鉄作り

の跡が発見されています。常陸風土記の丘の金龍橋を渡り、左側の少し奥に進むと、雌池と雄池という池があり、雌池の付近には砂鉄層が見られる場所があります。



▲砂鉄層

常陸風土記の丘の獅子頭展望台前には遊具・トイレが完備されているので楽しく遊べるよ！

